

# 令和7年度 町内会デジタル化実証実験 報告書

長岡市地域政策部

町内会デジタル化実証実験に参加された団体の皆さまからのアンケート結果及び実証期間中の運用状況をもとに、実証実験の成果と今後の課題を整理しました。

## 1 実証実験の概要

- ・実施期間：令和7年5月15日～令和8年3月31日
- ・対象：公募による5町内会（世帯数、所在地などのバランスを考慮）
- ・使用ツール：LINE 公式アカウント／LINE WORKS／LINE オープンチャット
- ・体制：株式会社雷神による運営サポート

## 2 各町内会での取り組み内容

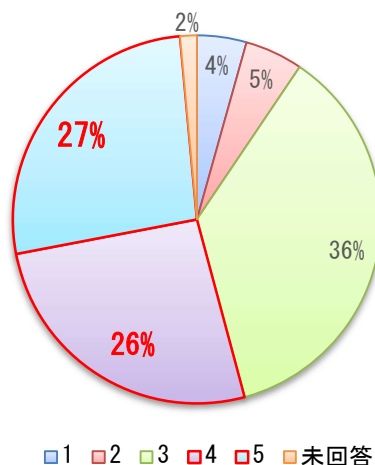
LINE 公式アカウント : 中沢町町内会  
LINE WORKS : 瓜生町内会、平島町内会  
LINE オープンチャット : 白山緑ヶ丘 1丁目2丁目町内会、  
大島新町二丁目町内会

## 3 実証実験のアンケート結果

実証実験後の住民アンケート（回答数 275 件）の集計結果から、デジタルツールの導入により、多くの住民が情報共有の利便性向上を実感していることが確認されました。以下は、アンケートの主要項目の集計結果となります。

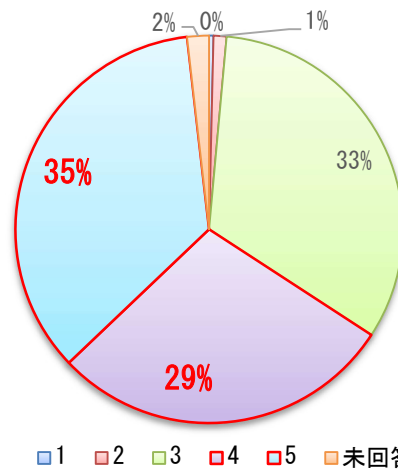
（※実証実験に登録していない方はアンケートに回答していません。）

Q：導入アプリへの総合満足度を教えてください。



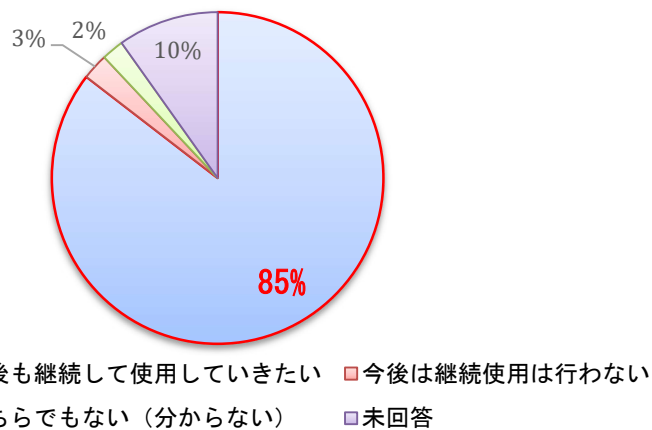
⇒ 回答者のうち **53%**の方から、肯定的な評価（4、5）を得られました。

Q：導入前と比べて、情報共有は改善しましたか？



⇒ 回答者のうち **64%**の方から、肯定的な評価（4、5）を得られました。

Q：今後もDXツールを継続して利用したいと思いますか？



⇒ 回答者のうち **85%**の方が「今後も継続して利用していきたい」と回答。

#### ～その他、アンケートで挙げられたご意見～

##### デジタルツール導入のメリット

- ・ 防災・防犯情報や急な連絡について、「早く届く」、「後から見返せる」。
- ・ 回覧板業務や連絡調整の負担軽減。
- ・ 若い世代との新たな接点の創出。
- ・ 災害・緊急時連絡手段としての有効性の確認。
- ・ 「まず試してみる」ことで得られた実践的な知見。

##### デジタルツール導入のデメリット

- ・ 通知が多く感じられる場合がある。
- ・ 投稿や発信のルールが分かりにくい。
- ・ スマートフォン操作に不安を感じる住民がいる。

#### 4 今後に向けた課題

本年度に実施した実証実験の結果を踏まえ、今後の町内会におけるデジタル化の検討にあたっては、次のような点について留意する必要があると考えられます。

##### ① 住民の皆様への丁寧な説明について

アプリの導入は、従来の回覧板に代わるものではなく、あくまで利便性を高めるための追加的な手段であることから、紙の回覧板も引き続き、継続して活用することについてご理解をいただく必要があると考えられます。併せて、町内会役員の負担軽減や紙・印刷費の削減などのメリットについても、分かりやすくお伝えしていくことが望まれます。

##### ② ターゲット

デジタル化の推進にあたっては、できるだけ多くの方が抵抗感なく利用できるアプリを活用し、住民の利便性向上を図るとともに、若い世代の方々が町内会役員へ参加しやすい環境づくりにつながるよう配慮していくことが重要と考えます。

##### ③ 利用にかかる費用について

ご家庭に Wi-Fi 環境が整っていない場合には、アプリの利用に際して通信料が発生する可能性があることについて、あらかじめ丁寧にお知らせしていく必要があると考えます。

##### ④ 情報掲載の方法について

主にスマートフォンでの閲覧が想定されることから、一度に閲覧できる情報量には一定の制約があると考えられます（例：市政だよりをそのまま掲載した場合、画面上で見づらい場合があります）。このため、テキストや写真、1枚程度の資料、またはウェブページへのリンク等、閲覧しやすい形での情報提供を基本とした運用が望まれます。加えて、情報量が多いと把握しにくいとの意見も見られることから、発信する内容については適切に整理し、分かりやすさに配慮していくことが望まれます。

#### 5 おわりに

本実証実験は、町内会デジタル化の「可能性」と「課題」の双方を明らかにする、貴重な取り組みとなりました。参加団体の皆さまのご協力により得られた知見は、今後の地域運営や、他町内会がデジタル化に取り組む際の参考として、大いに活かされるものと考えられます。改めて、ご参加・ご協力に感謝申し上げます。